

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：27101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02387

研究課題名(和文) 山県有朋・山県系官僚閥の内外史料分析による日本近代の再検討

研究課題名(英文) Reexamination of Modern Japanese History through the Analysis of Historical Materials in Japanese and Foreign Archives Relating to Yamagata Aritomo and His Bureaucratic Clique

研究代表者

小林 道彦 (Kobayashi, Michihiko)

北九州市立大学・基盤教育センター・教授

研究者番号：80211910

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,900,000円

研究成果の概要(和文)：大山梓編『山県有朋意見書』(原書房、1966年)を底本とする『新版・山県有朋意見書』の編集・刊行に向けて研究を行ってきた。大山前掲書刊行以来、約半世紀にわたって日本国内の史料館で収集・公開された近代関係文書には膨大なものがあるが、本研究ではまずそれらの史料から山県の意見書を選別・撮影・翻刻し、さらに『公爵山県有朋伝』などの刊本に収録されている意見書をリストアップして、山県有朋意見書の全容を把握した。編纂作業は「解題」執筆以外はほぼ完了しており、2020年度内の入稿をめざしている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

山県有朋は伊藤博文とともに明治国家を制度設計した軍人政治家であり、頻繁に意見書を執筆し、天皇や政府要路に上奏・頒布したことで有名な人物である。最新の史料状況に基づく『新版・山県有朋意見書』の編集・刊行は、山県有朋研究に資するのみならず、「近代日本」を考察する上でも必須かつ核心的なデータベースを構築することに他ならず、その学術的・社会的意義はきわめて大きい。

研究成果の概要(英文)：We have been engaged in research and editorial work in preparation for the publication of Yamagata Aritomo ikensho: shinpan (Yamagata Aritomo Proposals: A New Edition). Our point of departure was Yamagata Aritomo ikensho (Yamagata Aritomo Proposals) edited by Oyama Azusa (Hara shobo, 1966). As a first step in our research, we went through the vast body of published and unpublished materials in Japanese and foreign archives to produce a comprehensive list of proposals by Yamagata that have come to light since the publication of Oyama's classic volume more than fifty years ago. In addition, we have compiled a complete list of Yamagata's proposals in Koshaku Yamagata Aritomo den (The Biography of Prince Yamagata Aritomo) and other publications which the Oyama volume does not include.

We have now completed editorial work, and are in the process of writing a commentary. The manuscript will be ready for submission to the publisher in the financial year 2020.

研究分野：日本近代史

キーワード：山県有朋

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 大山梓編『山県有朋意見書』(原書房、1966年)はここ50年あまりにわたって、「日本の近代」を考察する際のごく基本的な史料集として多くの研究者によって利用されてきた。刊行以来半世紀余りの歳月を閲して、この間、国立国会図書館憲政資料室、防衛省防衛研究所図書館、国立公文書館、外務省外交史料館、宮内公文書館、憲政記念館、山口県文書館、小田原市立図書館山県公文庫などの公共機関において、新たに整理・公開された近代文書には膨大なものがある。またその内、特に重要な諸家文書は徐々に公刊されつつある。山本四郎、千葉功両氏それぞれのご努力による『寺内正毅関係文書』の翻刻・出版などはその一端を示している。さらに、ここ10年間に飛躍的に進んだ史料のデジタル化は1960年代とは全く異次元の史料へのアクセスを可能にしている。

(2) 山県有朋・山県系官僚研究も着実な進展を見せてきた。2000年以降に視野を限定しても、伊藤隆編『山県有朋と近代日本』(吉川弘文館、2008年)は、山県有朋=「保守反動」という先入観から脱け出した山県研究の水準を示しているし、評伝的研究では、伊藤之雄、井上寿一両氏によって新生面が開かれている(伊藤『山県有朋』文春新書、2009年、井上『山県有朋と明治国家』NHK出版、2010年)。前者は山県の内面的な葛藤の描写に力点を置いた評伝であり、後者はその外交構想分析に注力した作品である。

総じて言えば、近年における山県研究の最大の成果は、「山県有朋=日本軍国主義の頭目」といったステレオタイプの山県イメージが崩され、彼とその官僚閣を自由に論ずる学問的雰囲気醸成されたことであろう。本研究もまた、そうした先行研究の恩恵を蒙っている。

### 2. 研究の目的

(1) 以上のような研究状況、とりわけ史料公開状況を一瞥すれば、デジタル化時代に相応しい、新しい『山県有朋意見書』編纂の機はまさに熟しきっていると看做すを得ない。学界の貴重な共有財産ともいふべき大山梓編『山県有朋意見書』を底本とし、それに校訂を加えながら、『新版・山県有朋意見書』を編纂し、学界のみならず広く国民一般の閲覧に供すること、それこそが本研究の最大の目的である。ちなみに、同書には詳細な「解題」を付して、史料解釈に資するつもりである。

### 3. 研究の方法

(1) まず、大山編『山県有朋意見書』に収録されている82点もの山県意見書の典拠を確認し、原文書との校合作業を行った。

(2) 国立国会図書館憲政資料室、防衛省防衛研究所図書館、国立公文書館、宮内公文書館、憲政記念館、山口県文書館、小田原市立図書館山県公文庫などで史料悉皆調査を行い、未収録意見書の発見に努めた。防衛省防衛研究所図書館および外務省外交史料館・国立公文書館の所蔵資料の一部はアジア歴史資料センターで電子的検索や閲覧が可能となり、本研究もその恩恵に浴しているが、検索のためのキーワードの設定が不適切な事例も見受けられるので、現地での調査は必要不可欠である。

(3) 『公爵山県有朋伝』『明治天皇紀』『明治天皇御伝記史料・明治軍事史』『陸軍省沿革史』などの刊本の中から山県有朋意見書を探し出し、未収録意見書の発見に努めた。その結果は(2)の作業にも反映させた。

(4) 以上の史料は必要に応じて写真撮影し、近代文書の取り扱いやその読解に習熟している研究協力者の支援を得て、順次ワード原稿化を進めていった。また、その過程ですべての意見書を編年順に並べ直し、なおかつ画像データとのリンク付けを行い、『新版・山県有朋意見書』の全容把握を容易にした。

### 4. 研究成果

(1) 史料館での調査および刊本からの意見書探索は外務省外交史料館を除いてほぼ完了し、予想を大きく上回る全169点もの意見書を収録することができた(最終的な整理の結果、点数は若干変動する可能性がある)。また、文書のワード入力作業もほぼ完了している。残り10点余りの入力作業、および、ワードデータ(入稿原稿)の最終チェックは2020年3月に開催予定の研究会で一気に行う計画であったが、折からの新型コロナ感染にともなう緊急事態宣言によって、中止を余儀なくされてしまった。

(2) 未入力史料の入力作業、および入稿予定原稿の最終チェックは「解題」執筆に関する研究会と同時並行的に進めていく予定である。研究代表者、同分担者、同協力者が一堂に会して作業を進めるのが理想的であるが、コロナ問題の展開如何によっては遠隔会議方式を余儀なくされるかもしれない。いずれにせよ、2020年度内の出版社入稿を予定している。

(3) 『新版・山県有朋意見書』は千倉書房(東京都中央区京橋 2-4-12)から刊行することが内定している。なお、史料調査の過程で得られた新知見を列挙すれば以下のとおりである。

(4) 山県と山県系官僚閣は「模範国ドイツ」から多くの影響を受けてきたが、その実態には未解明の部分が多いこと。一例を挙げれば、寺内正毅や児玉源太郎の日露戦後の軍制改革構想は、陸軍省による参謀本部のコントロールを志向する「フランス型」に属すると考えられること。

(5) 軍事顧問として著名なクレメンス・メッケルの影響は、国制レベルよりも「軍事プロパー」

レベルで顕著であり、領邦国家の集合体としてのドイツ帝国は、国制レベルでは国軍建設の模範例から逸脱する可能性を有していたこと。

(6) 山県系官僚閥は1922年1月の山県之逝去を待たずしてすでに衰退しつつあったが、それは彼らの多くが信奉していた「模範国ドイツ」の崩壊(1918年11月、ドイツ革命)による、共通の価値体系の動揺によるところが大きかったと推測されること。

(7) 日本の朝鮮統治とドイツ第二帝政のポーランド人支配、およびハプスブルク帝国のボスニア・ヘルツェゴビナ統治との比較研究の可能性を見出すことができたこと。

(8) 以上の新知見は、『新版・山県有朋意見書』の「解題」や各自の個別論文執筆のなかで順次公開していく。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小林道彦	4. 巻 29
2. 論文標題 軍事関係勅令と軍令の年別一覧表作成の試み（2）	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 北九州市立大学基盤教育センター紀要	6. 最初と最後の頁 253～277
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 森靖夫	4. 巻 407号
2. 論文標題 近代日本における「国家総動員」準備の形成（1918～1927）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 同志社法学	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 森靖夫	4. 巻 408号
2. 論文標題 戦間期イギリスにおける「国家総動員」準備（1924～1939）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 同志社法学	6. 最初と最後の頁 91-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 西田敏宏	4. 巻 2019- 1
2. 論文標題 書評佐々木雄一『帝国日本の外交』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 361-364
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林道彦	4. 巻 33号
2. 論文標題 山県有朋「外交政略論」の錯簡について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北九州市立大学基盤教育センター紀要	6. 最初と最後の頁 131-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 186巻5・6号
2. 論文標題 記憶としての明治維新	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法学論叢	6. 最初と最後の頁 72-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智・梶原克彦	4. 巻 47号
2. 論文標題 第一次世界大戦と在独日本人の抑留問題(1)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集・社会科学編	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智・梶原克彦	4. 巻 48号
2. 論文標題 第一次世界大戦と在独日本人の抑留問題(2)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集・社会科学編	6. 最初と最後の頁 33-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智・梶原克彦	4. 巻 48号
2. 論文標題 前田利為日記（一九一三年～一九一四年）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集・社会科学編	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 669号
2. 論文標題 オーストラリアと日本・中国	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 公研	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 675号
2. 論文標題 海外の日本研究への支援強化を	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 公研	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀧井一博	4. 巻 27号
2. 論文標題 開港期神戸と初代兵庫県知事伊藤博文	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神戸市紀要 神戸の歴史	6. 最初と最後の頁 3、27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 14号
2. 論文標題 「明治五〇年」と「明治一五〇年」のあいだ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 吉野作造研究	6. 最初と最後の頁 21、29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 184巻2号
2. 論文標題 記憶としての明治維新	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法学論叢	6. 最初と最後の頁 1、25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森靖夫	4. 巻 70巻3号
2. 論文標題 戦間期アメリカの「国家総動員」準備 (1920 - 1939)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 同志社法学	6. 最初と最後の頁 43、69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森靖夫	4. 巻 70巻4号
2. 論文標題 アメリカから見た日本の「国家総動員」準備 (1918 ~ 1938)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 同志社法学	6. 最初と最後の頁 147、177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森靖夫	4. 巻 70巻6号
2. 論文標題 日本の国家総動員のモデル - 『資源』(1931~1937)を手がかりに	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 同志社法学	6. 最初と最後の頁 67, 96
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 19
2. 論文標題 木内重四郎と岩崎家	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 三菱史料館論集	6. 最初と最後の頁 95-119
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 182-4・5・6
2. 論文標題 第一次世界大戦初期の日本における政党系新聞の外交論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法学論叢	6. 最初と最後の頁 198-287
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森靖夫	4. 巻 69-7
2. 論文標題 イギリスから見た日本の「国家総動員」準備	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 同志社法学	6. 最初と最後の頁 593-619
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 森靖夫	4. 巻 69-3
2. 論文標題 戦間期イギリスの総力戦論 (1918-1938)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 同志社法学	6. 最初と最後の頁 73-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森靖夫	4. 巻 53-2
2. 論文標題 誰が為の国家総動員法	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 軍事史学	6. 最初と最後の頁 128-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件 (うち招待講演 11件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 瀧井一博
2. 発表標題 Boulangism and Meiji-Japan: Japan's first encounter with parliamentary democracy
3. 学会等名 The 71st conference of The International Commission for the History of Representative and Parliamentary Institutions, at the Congress Center of Andorra la Vella (Principality of Andorra) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 瀧井一博
2. 発表標題 The Four Constitutional Monarchs of the Modern Japan
3. 学会等名 Seminar at the Arab Historians (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奈良岡聡智
2. 発表標題 「政界の奥座敷」大磯の別荘群からみた近代史
3. 学会等名 国登録文化財登録記念七賢堂特別開扉講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奈良岡聡智
2. 発表標題 第一次世界大戦期ベルギーにおける日本人抑留者問題
3. 学会等名 第4回東アジア日本研究者協議会（台湾大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奈良岡聡智
2. 発表標題 対華二十一カ条要求研究の現状と課題
3. 学会等名 日本国際問題研究所・2019年度第7回東アジア史検討会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 瀧井一博
2. 発表標題 明治憲法史の世界史的意義
3. 学会等名 「明治維新と近代世界」国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 瀧井一博
2. 発表標題 Between Constitutional Politics and Parliamentary Politics: Ito Hirobumi and the Early Japanese Diet
3. 学会等名 "70th Conference of the International Commission for the History of Representative and Parliamentary Institutions" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 瀧井一博
2. 発表標題 " " 150 Years Anniversary of the Meiji Revolution: Rethinking its Value in the World History " "
3. 学会等名 7th Meeting of the JSPS Club in Japan (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 瀧井一博
2. 発表標題 智識交換の明治 渡邊洪基：「ひろがる知、つながるひとの輪」を明治に夢見た人
3. 学会等名 総研大文化フォーラム・シンポジウム「ひろがる知、つながるひとの輪」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 瀧井一博
2. 発表標題 本シンポジウムの趣旨
3. 学会等名 国際日本文化研究センター主催第53回国際研究集会「世界史のなかの明治 / 世界史にとっての明治」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森靖夫
2. 発表標題 英米から見た日本の総力戦体制の形成
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奈良岡聡智
2. 発表標題 Guardians of the Mediterranean : the Japanese Navy during the First World War
3. 学会等名 Dipartimento Istituto Italiano di Studi Orientali(ISO) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sochi Naraoka
2. 発表標題 The First World War and Japan: From Territorial Expansionism to International Cooperation
3. 学会等名 "Officers, Adventurers and Statesmen: Reconsidering Militarism in 20th Century Japan" at Hebrew University of Jerusalem (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sochi Naraoka
2. 発表標題 Japan's Twenty-One Demands and Their International Impact: New Research on British Sources
3. 学会等名 EAJS 2017 15th International Conference of the European Association for Japanese Studies at New University of Lisbon (Universidade NOVA de Lisboa) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1 . 発表者名 Sochi Naraoka
2 . 発表標題 From “ Antagonism ” to “ Friendship ” :Rethinking of Russo-Japanese Relations after the Russo-Japanese War
3 . 学会等名 Far Eastern Federal University, Vladivostok ( 招待講演 )
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Sochi Naraoka
2 . 発表標題 The First World War and Japan :from a new perspective
3 . 学会等名 University of Warsaw, Warsaw ( 招待講演 )
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Sochi Naraoka
2 . 発表標題 Guardians of the Mediterranean: the Japanese Navy in Malta during the First World War
3 . 学会等名 University of Malta, Malta ( 招待講演 )
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Yasuo Mori
2 . 発表標題 War Preparations in 1920s Japan
3 . 学会等名 International Workshop “ Prisoners of War and Civilian Internees from the Viewpoint of East Asia, Cambridge University ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuo Mori
2. 発表標題 Preparation for Total War in 1920s Japan
3. 学会等名 "Officers, Adventurers, and Statesman: Reconsidering militarism in 20th Century Japan", Hebrew University of Jerusalem (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazuhiro Takii
2. 発表標題 The Meiji Restoration at 150: Researching, Commemorating, and Teaching
3. 学会等名 Association for Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 小林 道彦	4. 発行年 2020年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 552
3. 書名 近代日本と軍部 1868 - 1945	

1. 著者名 森 靖夫	4. 発行年 2020年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 432
3. 書名 「国家総動員」の時代	

1. 著者名 瀧井一博、奈良岡聰智、小林道彦（山内昌之、細谷雄一編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 310(31-48, 91-107, 139-160)
3. 書名 日本近現代史講義	

1. 著者名 瀧井 一博（清水唯一朗、瀧井一博、村井 良太編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 312
3. 書名 日本政治史	

1. 著者名 Gabor Hamza, Milan Hlavacka, Kazuhiro Takii (Hrsg)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Peter Lang	5. 総ページ数 420 ( 395 - 406 )
3. 書名 Rechtstransfer in der Geschichte: Internationale Festschrift fuer Wilhelm Brauner zum 75. Geburtstag	

1. 著者名 尚友倶楽部編（奈良岡聰智・中園裕・内藤一成・村井良太・小宮京）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 芙蓉書房出版	5. 総ページ数 690
3. 書名 河井弥八日記 戦後編 4	

1. 著者名 奈良岡聡智・門井慶喜	4. 発行年 2020年
2. 出版社 潮出版社	5. 総ページ数 256
3. 書名 誰かに教えたいくなるレトロ建築の話	

1. 著者名 西田敏宏（「20世紀と日本」研究会編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 千倉書房	5. 総ページ数 217 - 245（全372）
3. 書名 もうひとつの戦後史	

1. 著者名 瀧井一博・奈良岡聡智（筒井 清忠編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 99 - 112、299 - 315（全400）
3. 書名 明治史講義 【人物篇】	

1. 著者名 奈良岡聡智（五百旗頭薫氏との共著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 13 - 28、109 - 159、231 - 270（全286）
3. 書名 日本政治外交史	



1. 著者名 小林道彦・瀧井一博・森靖夫・西田敏宏他著（伊藤 之雄、中西 寛編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 29 61、63-85、177-207、357-395 (全492)
3. 書名 日本政治史の中のリーダーたち	

1. 著者名 奈良岡聰智他著（筒井 清忠編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 299-315 (全400)
3. 書名 明治史講義 【人物篇】	

1. 著者名 瀧井一博他著（井上 章一編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 30-52 (全384)
3. 書名 学問をしばるもの	

1. 著者名 奈良岡聰智他著（公益財団法人 東洋文庫、岡本隆司編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 97-133 (全312)
3. 書名 G・E・モリソンと近代東アジア	

1. 著者名 奈良岡聰智・西田敏宏他著（筒井 清忠編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 17-34、73-89（全304）
3. 書名 昭和史講義 3	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	瀧井 一博  (Taki kazuhiko)  (80273514)	国際日本文化研究センター・研究部・教授   (64302)	
研究分担者	西田 敏宏  (Nishida Toshihiro)  (90362566)	檀山女学園大学・現代マネジメント学部・准教授   (33906)	
研究分担者	奈良岡 聰智  (Naraoka Sochi)  (90378505)	京都大学・法学研究科・教授   (14301)	
研究分担者	森 靖夫  (Mori Yasuo)  (50512258)	同志社大学・法学部・准教授   (34310)	
研究分担者	松本 浩延  (Matsumoto Hironobu)  (30844089)	同志社大学・法学部・助教   (34310)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	齊藤 紅葉  (Saito Momiji)		
研究協力者	徳重 伸  (Tokusige Shin)		
研究協力者	井本 莞司  (Imoto Kanji)		
研究協力者	伊丹 明彦  (Itami Akihiko)		
研究協力者	西田 彰一  (Nishida Shoichi)		